

令和2年度 第2回尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会

議事概要

日時：令和3年2月24日（水）13：30～16：00

会場：【埼玉】 関東地方環境事務所 会議室

【群馬】 群馬県庁 会議室

【栃木】 ウェブ会議システム「Webex」

【福島】 ウェブ会議システム「Webex」

■総合司会 （株）野生動物保護管理事務所 奥村取締役

■事務局挨拶：関東地方環境事務所 井上課長

本年度は新型コロナウイルスの影響により計画通り実施できなかった事業が多くある中、関係者の方々ののおかげで尾瀬・日光国立公園でのニホンジカの捕獲・植生保護対策を推進することができた。尾瀬日光国立公園の貴重な植生に被害を与えているニホンジカ対策のため、昨年1月に決定した尾瀬日光国立公園ニホンジカ対策方針に基づいて対策を進めてきた事業内容の報告と来年度の具体的な実施計画について議論させていただきたい。有識者の先生方からは、今後のシカ対策の推進に向けて、ご意見、ご助言をいただきたい。

■議事：進行 関東地方環境事務所 村上企画官

(1) 令和2年度の報告と令和3年度実施計画

- a. 環境省
- b. 林野庁
- c. 群馬県
- d. 福島県
- e. 栃木県

(2) 地域別意見交換

(1) 令和2年度の報告と令和3年度実施計画

a. 環境省

- ・尾瀬地域に関しては5月上旬から捕獲が始められるようにし、また尾瀬沼の捕獲地域を拡大した。その結果、90頭のシカが捕獲され、事業が始まってから最も多い捕獲頭数となった。来年度については新潟地域の捕獲地域を拡大し、今年度以上の捕獲を目指す。
- ・日光地域については新たに湯元と三岳で捕獲を実施し、合計50頭を捕獲した。来年度も捕獲を継続して実施していく。
- ・植生保護柵は新たに3か所柵を設置した。来年度は竜宮に柵を設置する予定である。
- ・モニタリングについても昨年度よりも早い5月上旬から開始した。また、田代山、帝釈山、会津駒ヶ岳に新たにセンサーカメラを設置した。来年度はこれまでの調査を継続して実施して

いくほか、奥日光に夏季にいる個体を対象として GPS 追跡調査を開始する。

- ・その他、生態系保全等専門員を 1 人増やし、檜枝岐、片品、日光事務所に各 1 人配置された。
- ・尾瀬・奥日光地域を対象にシカの個体数推定を実施した。追って広域協議会でお知らせする。

b. 林野庁

- ・各地域でくくりわなでの捕獲を実施してきた。来年度も捕獲地域を増やし、くくりわな、囲いわなを用いて捕獲を実施していく。
- ・大江湿原でのシカ柵の取組については予算の確保、活動の継続が課題となっているため、今後、実施方法の検討を行う。
- ・東電小屋付近にカメラを設置しているが平成 30 年以降シカの撮影はない。令和 2 年度は現在解析中であるが、カメラがクマに破壊されたり、カメラ回収時にクマと遭遇したということがあったため、クマの密度が高くなっていると感じる。

c. 群馬県

- ・移動個体の捕獲を実施しており、11 月時点で 192 頭の捕獲しており、今後も捕獲地域の拡大を検討しながら継続していく。
- ・至仏山と研究見本園で柵を設置した。令和 3 年度は柵の維持管理と、研究見本園では柵の延長、竜宮では環境省による新規柵の設置が予定されているため、群馬県が設置していた方形柵については、今後設置しない。

d. 福島県

- ・全域で捕獲を実施し、現在までに 108 頭捕獲した。来年度についても目標頭数は未定だが、捕獲は継続して実施する。
- ・大江湿原の柵を職員実行で行った。今後も維持管理を行っていく。

d. 栃木県

- ・令和元年度から越冬地である社山での忍び猟を実施し、令和元年度は 150 頭捕獲、捕獲効率は 2.8 頭/人日であった。来年度も社山の忍び猟を継続し、ICT を活用した捕獲を今後検討する。
- ・各機関による捕獲によって奥日光の生息密度は低下している。捕獲方法についてはシカの状況等を考慮して選択することで捕獲圧を維持・強化することが大切になる。

■ 質疑応答

○村上企画官

- ・栃木県の越冬地での捕獲に関しては、猟友会の選抜部隊による捕獲困難地域として、全国的に参考になる事例である。このような取組の実施を拡大するにあたって、課題になることはあるか。

○栃木県

- ・猟友会の高齢化が問題となっているため、次年度の従事者名簿の更新時に間口を広げて公募したいと考えている。また、シカの捕獲を実施する上で従事者の技量が必要になるため、個人の技量を評価できるよう射撃検定を実施していきたい。

○WMO

- ・栃木県の捕獲数と生息密度の推移を見ると生息密度が下がってきている。県で生息密度がどこまで下がったら目標達成とするのか、また今後の捕獲努力量について教えてほしい。

○栃木県

- ・現状の生息密度は 5 頭/km²になっているのでこのまま捕獲を継続することが望ましい。捕獲を中

断してしまうと、生息密度が高い値に戻ってしまうため、捕獲努力量は毎年維持できるようにしていく。

■有識者からのコメント

○小金澤名誉教授

・全体として良い方向に向いているが、捕獲頭数がまだ足りないと感じるので、捕獲の強化が課題になる。

○谷本名誉教授

・成果は少しずつ上がっている一方、シカの移動範囲が拡大したことで、今まで被害がなかった場所でも植生被害が起きている印象を受ける。優先防護柵エリアの柵設置を優先的に実施すべきである。

・シカの生態調査が足りないと感じる。

・最終的に人間とシカが共生していくことが目標になるため、それを考慮した計画にしてほしい。

○大森主幹

・いかに尾瀬にシカを入れないかが重要になってくるので、国道 401 号線、国道 102 号線での捕獲が計画以上の実績になることが必要である。

・猟友会の高齢化により捕獲従事者のマンパワーが不足しているため、集中捕獲を実施し、できる限りよく捕獲される場所にマンパワーを投入した方が良い。

・シカの移動経路が広がり、計画にない場所もシカが利用しているため、早めに手を打った方が良い。

・優先防護エリアの柵設置は順調に進んでいると思う。残りが笠ヶ岳、燧ヶ岳など柵の設置・管理に労力がかかる場所になっているため、いかに効率的に柵の設置・維持管理を行っていくかが重要な課題となる。

・拋水林がシカの食害場所であり、移動経路でもあるため、防護と捕獲を相互的に実施していく必要がある。

・シカが柵を破壊し、突破した事例もあるため、管理と老朽対策が課題になる。

○奥田准教授

・低密度になったとしても捕獲圧は維持した方が良い。

・今後、様々な地域でシカの個体数が増加していくことが考えられるため、捕獲の強化は最低条件になる。

・尾瀬ではシカの移動経路が明確になり、捕獲適地などの情報が蓄積されてきた。この情報から捕獲場所、最良の捕獲方法を選択することができ、それを実行する体制作りが今後重要になる。

・様々な機関が連携して細かい情報を繋いでいき、捕獲の強化・戦略をこの広域協議会で詰めていければ良い。

(3) 地域別意見交換

■栃木グループ

○事務局

【観光地（湯元）でのシカ出没状況の共有と捕獲について考える】

・事務局より、湯元周辺に出没しているシカの写真および動画を共有した。また、今年度の環境省事業での捕獲について、情報共有を行った。

・湯元周辺では、7年ほど前からシカが出没していたようだが、コロナの影響で観光客が減ったことによって、さらに出没頭数が増えている印象を受ける。

・シカの生息環境の悪化が、シカの市街地出没の要因になっている可能性もある。生息環境の悪化が原因なのか、観光客が減ったことによるシカに対する危険の減少が原因なのかは慎重に見極める必要がある。

- ・湯元周辺は誘引が効くので、まずは囲いかなでの捕獲を進めると良いだろう。
- ・人目の付かない場所や囲いかなを設置する場所については、現地視察を行って検討を進める。
- ・湯元周辺や三岳周辺での銃猟は過去に行ったことがある。事前調整などしっかり行ったので、クレームなどの問題は起こらなかった。

【日光地域のシカ柵設置状況の情報共有】

- ・現在も希少種が残っているのか調査が必要な場所については、鬼怒沼、女峰山、西ノ湖、刈込湖、禅寺湖畔もしくは菖蒲ヶ浜周辺等が挙げられた。
- ・鬼怒沼は採食圧が高い。植生がなくなって泥炭層がむき出しになっている箇所が何箇所もある。
- ・ササの保護については、県道 1002 号線沿いに部分的にスズタケが残っていることから、部分的にでも柵を設置した方が良いのではないかと。
- ・太郎山、国境平については、既に過去の植生が失われていると思われる。
- ・白根山に設置されている栃木県が設置した柵にシカが入ってしまい、植物が採食されている。また、柵内で伸びた植物に被陰され、小型化している印象。群馬県が設置した柵内にはシラネアオイを植栽しているが、萌え出たばかりのものを食べられてしまう。
- ・足尾地域では猛禽類が生息しており、尾根沿いや裸地に柵を作ると絡まってしまう可能性がある。注意する必要がある。
- ・庚申山のコウシンソウは盗掘の影響の方が大きく、シカの害はそれほどないだろう。
- ・日光地域の保護林の位置図に関しては、日光森林管理署の HP よりダウンロードできる。

■群馬グループ

各関係機関より対策実施状況を順にご説明いただき、地図を見ながら担当者間で情報共有した。

【夏季生息地での捕獲】

- ・事務局より、尾瀬ヶ原、尾瀬沼における捕獲について情報共有を行った。
- ・尾瀬ヶ原では季節を問わず誘引が効かないことがわかっている。鉋塩、醤油、ヘイキューブなど様々な餌を試したが、反応が悪く、湿原の植物に依存していると考えられる。誘引が効けば捕獲効率も上がるため、越冬地などで試験的に実施してみると良い。
- ・拋水林での捕獲強化が必要であるため、今後調整を行っていく。

【季節移動経路での捕獲】

- ・各関係機関より季節移動経路上での捕獲事業について情報共有を行った。
- ・(群馬県)シカの通過時期や通過場所を把握している地元の猟友会が捕獲従事者になっているが、高齢化が課題となっているため、今後、捕獲従事者の確保、育成が必要になる。
- ・(群馬県)契約捕獲頭数を超える年度が多くなり、予算対応に苦慮している。今後は目標捕獲頭数をより高いところに設定し、それに応じた予算組みを想定している。
- ・(片品村)イノシシの捕獲も数頭あり、尾瀬ヶ原でも目撃情報がある。CSF の心配もあるため、イノシシも並行して対策が必要になる。
- ・GPS による移動状況の情報から時期、経路を予測できている。有効な情報であるため引き続き GPS データを収集してほしい。

【越冬地や分布拡大地域での捕獲】

- ・利根沼田森林管理署より越冬地、分布拡大地域での捕獲について情報共有を行った。
- ・平成 28 年度から職員実行による捕獲を行っており、捕獲数は伸びている一方、見回りの労力が負担になっている。また、人が見回りを頻繁に行うことでシカがわな周辺を警戒して近づかなくなることもあるため、ICT 機器等の早急な定着化が必要になる。
- ・ICT 機器の導入により見回り労力を省力化できるが、誤作動も起こるため、3 日に 1 度は目視確

認を行うことが望ましい。

■福島県グループ

【新潟県域での捕獲】

- ・新潟県内では、上越市、妙高市、糸魚川市といった県内でも生息密度が高いと考えられる県西部で捕獲を実施した。今後は魚沼市での捕獲も検討する。
- ・東電小屋周辺に設置されている自動撮影カメラでは近年はシカの撮影頻度は、増加傾向とはなっていないが、R2年度はクマに壊されるカメラもあった。
- ・R2年度は、尾瀬国立公園内を利用しているGPS首輪個体のデータが示されていて、尾瀬国立公園からさらに北上して、魚沼市まで移動したメスのGPS首輪個体もいた。

【溪畔林での対策】

- ・何を守るかで捕獲、柵の設置など対策は変わってくる。南会津支署が地元猟友会と相談して捕獲を実施する選択肢も考えられる。
- ・クマが多い場所と認識しているので、その点が懸念事項である。
- ・溪畔林はシカが好む植物が多く、シカが集まりやすい環境なので捕獲場所として良い。一方で植物を守る観点では、柵設置や追い払いといった防除対策が良く、特に希少種は小規模でも早く柵で囲うべき。
- ・溪畔林での捕獲は慎重な意見もあるが、できる対策を調整しながら進めていく。
- ・対策を実施する上で、現場がどのように対応するのが一番良いか、現場感覚が重要である。クマに関しては、捕獲したシカの死体の残置が行われることが想定されるので、懸念事項をクリアしていくことが必要である。捕獲もそうだが、相補的に柵の設置、少額予算で小規模でもできるものをできるだけ早く実施していくことが重要である。現場の意見を反映できるような体制や対策が必要となる。

【南会津地域での捕獲とモニタリング】

- ・大江湿原のシカ柵の設置・解体は、南会津シカ対策協議会でボランティアを募って実施していたが、R2年度は新型コロナの影響で関係機関のみでの実施となり、実施体制が課題。南会津支署は南会津シカ対策協議会として、地元猟友会にワナを100基貸し出し、92頭捕獲できた。
- ・R2年度、御池田代はシカ柵の設置、自動撮影カメラ3台の設置が実施されており、シカ柵設置完了後は、カメラにシカが映らなくなり、湿原も回復傾向にある。R3年度は、大津岐での捕獲を検討している。新潟県魚沼市の鷹ノ巣付近では、越冬個体を確認している。
- ・南会津町の捕獲に関しては、R3年度もR2年度と同様に実施予定。GPS首輪装着も継続で予算措置を実施。R2年度は1頭、昭和村北部（金山町に近い場所）で装着した。
- ・R2年度、福島県の指定管理捕獲では、会津、南会津、県中、県南で合計700頭の捕獲目標頭数を達成。R3年度は、県北を含めて捕獲を実施予定。効果的捕獲促進事業では、鉈塩を用いた誘引捕獲を実施、シカの誘引はなかったが、R3年度は、設置場所の変更やヘイキューブを活用した誘引捕獲を実施する予定である。
- ・モニタリングデータを地元猟友会に提示はできるが、捕獲場所を動かせるかという点は、どこまで変更できるか保証できない。
- ・捕獲圧を高めるだけでなく、面的に捕獲努力量の密度分布を戦略的に展開していくことが課題だが、捕獲従事者の見返り（報奨金）も必要となる。現状は捕獲圧は高まっているが、林道沿い、農地沿い、遠すぎない範囲での捕獲となっている。奥山でシカの密度が高い場所がモニタリングで明らかになっても現状より遠い場所で捕獲してもらうことは、また別の課題となる。
- ・R2年度は、指定管理捕獲の目標頭数の上限に早期に達し、それ以後の捕獲の実施がなかったため、予算の使い方が課題である。今後は栃木県で先行しているような捕獲困難地での捕獲が必要と考えられるため、捕獲困難地域では、報奨金を高く設定する、捕獲できるだけ捕獲できるような目標頭数に上限を設定するなど工夫が必要である。
- ・協議会を新たに設けることで、指定管理鳥獣捕獲等事業の交付金を活用し、南会津地域の対策

をさらに進めていけるのではないか。

- ・モニタリングは捕獲に応用しないと意味がない。糞塊密度調査や自動撮影カメラのデータが集まってきたが、季節移動個体群を対象とする場合は、四季によってシカの密度が変わるため、秋のデータだけ取得しても季節移動中しか取得できず捕獲に繋げていけない。自動撮影カメラを活用するなら、季節移動でどの時期に多くなるのか、夏にどのくらいのシカがいるのかといった情報取得することが必要である。捕獲に関しても、県全域で指定管理鳥獣捕獲等事業が実施されているが、捕獲場所を絞らなければいけない時期に来ている。シカが多く出没する場所で重点的にモニタリングし、幼獣・メスが多い場所、冬の越冬地を明らかにしていくことが捕獲に有効である。

- ・指定管理鳥獣捕獲等事業は非常に大きなウェートを占めている。モニタリングも含めてどうやって人員調整し、対策を進めていくのが効率的なのか、捕獲数を増やせるのか検討が必要である。環境省として、尾瀬・南会津を含めた調整をしていきたい。

栃木会場グループ

テーマ①： みんなで手作りGIS 第二弾

これまでの協議会で聞こえてきたこと

柵について：

日光地域はシカ対策の歴史が長い。

様々な柵を様々な機関で設置してきた。

日光地域での柵の情報が集約されていない。



日光地域の柵の設置情報を集約したい！

今後の植生保全対策の際に参考になる地図を作りたい！

今後の植生保全対策の際に参考になる地図を作りたい！

Step1 : 手作り地図を作ろう！

事前に提供していただいた情報をまとめたので、改めて眺めてみましょう。

共有してほしいこと：

他に、設置した機関が分からないような柵はありませんか。

Step2 : 今後植生保護柵が必要な場所を考えよう！

Step1で作った地図を眺めながら、来年度以降に植生保護柵が必要となる候補地を探したいと思います。

自分の所属機関が実現するかどうかは別にして、ここは必要かもしれないと思う地域をピックアップしていきましょう！

「希少な植生、シカの採食に脆弱な植生はどこ？」、「柵の設置は急いだ方がよい？」など伺っていきます。

今後、柵を設置したい地域についての相談もOK！

栃木会場グループ

テーマ②： 観光地での捕獲

湯元の現状

湯元に出没するシカ：
日中にもかかわらずシカが出没。
観光客とシカの距離が近すぎる。
シカが大きな群れを作っている。



湯元での危機感を共有したい！

観光地での捕獲に関する障壁を共有したい！

湯元での危機感を共有したい！

Step1：湯元の現状共有

湯元でのシカの様子を動画と写真で紹介します。

Step2：湯元で行った捕獲について共有

環境省事業で行った湯元での捕獲について共有します。
(調整事項、捕獲場所、捕獲手法など)

Step3：観光地での捕獲における障壁

観光客や地元住民など人が多い地域での捕獲だったので、人目を避けたり厳重な安全確保等、様々な障壁がありました。観光地での捕獲をどのように進めていくか、みなさんのご意見をお聞かせください(捕獲手法、捕獲時期、調整事項など)。

テーマ①および②の結果

グループワークを通して整理できたこと

【テーマ①】

- ・現在も希少種が残っているのか調査が必要な場所について
→鬼怒沼、女峰山、西ノ湖、刈込湖、禅寺湖畔もしくは菖蒲ヶ浜周辺。
- ・ササの保護
→県道1002号線沿いに部分的にスズタケが残存。
- ・既に過去の植生が失われている場所について
→太郎山、国境平は既に過去の植生が失われていると考えられる。

【テーマ②】

- ・湯元に出没するシカ
→7年ほど前からこのような状況である。コロナの影響で観光客が減り、さらに出没が多くなった印象。
- ・湯元での捕獲
→誘引が効くので囲いわなで捕獲すると良いだろう。
→視察を行ってから具体的に検討する。

群馬会場グループ

テーマ： 捕獲についてたっぷり語ろう

これまでの協議会で聞こえてきたこと

捕獲について：

- ・群馬県は尾瀬のシカの季節移動経路の全ての要素を含む。
- ・それらに対し関係機関が協力して捕獲にあたっており、捕獲数は概ね増加傾向である。
- ・にもかかわらず、シカを十分減らせているとは言い難い。



シカの捕獲数をさらに飛躍的に(2~3倍に)
伸ばしていくことを目指したい！！

今回のグループワークでは、現状と課題を共有しましょう！

ケース1：夏季生息地での捕獲

- ・尾瀬ヶ原や尾瀬沼での捕獲について
- ⇒WMO（発表+相談で15分）

ケース2：季節移動経路での捕獲

- ・奥鬼怒林道や国道401号、国道120号での捕獲について
- ⇒①群馬県発表、②片品村発表、③合わせて相談
- ⇒計30分

ケース3：越冬地や分布拡大地域での捕獲

- ・沼田市、昭和村での捕獲について
- ⇒利根沼田森林管理署（発表+相談で15分）

グループワークを通して整理できたこと

【ケース1】

- ・尾瀬ヶ原における待機射撃での誘引について
→湿原の植物に依存しているため誘引効果なし。越冬地では有効ではないか。
- ・扱水林での捕獲
→扱水林がシカの食害場所であり移動経路である。捕獲の強化が必要。

【ケース2】

- ・シカの移動情報を知り尽くした熟練捕獲従事者の高齢化
→熟練捕獲従事者と共に行動し、新規捕獲従事者の確保と育成を行っていくことが重要。
- ・イノシシについて
→尾瀬ヶ原でのイノシシ目撃情報があるため、イノシシ対策も今後必要になる。
- ・移動個体のGPS情報について
→GPSのデータからシカの移動時期、経路を予測できている。有効な情報であるため引き続きGPSデータの収集が必要。

【ケース3】

- ・見回りの労力
→ICT機器等の早急な定着化が必要。
→ICT機器は誤作動も起こるため、3日に1度は目視確認を行うことが望ましい。

福島会場グループ

テーマ：被害軽減のために捕獲数を増やす
人員、予算に応じた
捕獲場所の拡大、効率的な対策の検討

これまでの協議会で聞こえてきたこと

捕獲とモニタリングについて：

- ・シカの捕獲のための人員や予算が限られる。
- ・福島県域はシカのGPS首輪での季節移動経路が未解明。
- ・モニタリング調査は、会津駒ヶ岳・田代山のカメラ調査（環境省）、糞塊密度調査（福島県）の実施が始まった。

モニタリング結果を活用し、
限られた人員や予算で
シカの効率的な対策を検討したい！

今回のグループワークでは、現状と課題を共有しましょう！

○被害軽減のために捕獲数を増やす

トピック1: 尾瀬ヶ原の捕獲場所拡大、対策に関して

- ・捕獲場所拡大(新潟県域)
 - ・溪畔林(福島県域)の現状
- 
- ・新潟県域での捕獲、溪畔林での対策に関して意見交換

トピック2: 南会津地域の捕獲とモニタリングに関して

- ・南会津地域の捕獲とモニタリング結果の現状
 - ①糞塊密度調査結果
 - ②自動撮影カメラの設置状況
 - ③シカ捕獲の実施場所
- ⇒5kmメッシュ単位で全体を俯瞰し、現状を把握

- 
- ・効率的な捕獲場所、目的に応じたカメラ設置方法の検討

①新潟県域での対策

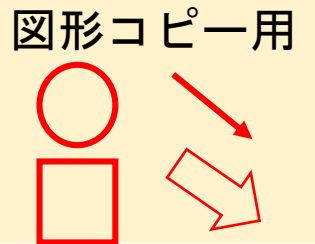
新潟県

- ・新潟県内では、上越市、妙高市、糸魚川市といった県西部のシカ密度が高く、環境省の指定管理鳥獣捕獲等事業交付金を活用してニホンジカ捕獲を実施している。
- ・魚沼市ではまだ捕獲をしていないが、R3年度以降は県として対応を検討していく。

中越森林管理署

- ・東電小屋周辺にカメラを8台設置。
- ・H28,H29,R1,R2で調査を実施し、撮影頻度を集計。
- ・R1はシカが映らない結果で、増加とはなっていない。
- ・R2はクマに破壊されるカメラがあった。
- ・カメラ回収時にクマと遭遇したことからクマが増えている印象を持っている。
- ・異常な小雪から群馬県側からシカが流れてきているのではないかと考えている。

ボックス
(コピーして
使用)



② 溪畔林での対策

南会津支署

・何を守るかで、捕獲なのか柵なのか、対策は変わる。日光森林管理署のように、署として捕獲を実施するといった選択肢も考えられるが、地元猟友会との相談が必要。

檜枝岐村

・溪畔林に関しては、クマが多いという点が心配。

テンドリル

- ・溪畔林はシカが好む植物も多く、糞や足跡など痕跡も多い。
- ・シカが集まりやすい環境で捕獲場所の候補として良い。
- ・少数のシカでも被害が出るので、希少種は小規模でも早く柵設置するのが良い。

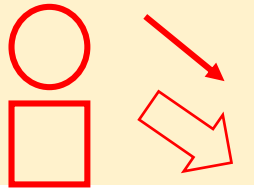
環境省

・溪畔林の捕獲は慎重な意見もあるが、できることを関係機関と調整しながら進めたい。

奥田先生

- ・対策は現場感覚が一番重要。
- ・残置したシカへのクマの誘引の懸念はクリアする必要がある。
- ・捕獲と相補的に小規模少額でも早く柵設置していくことが必要。
- ・現場の意見を反映できるような体制や対策が必要。

図形コピー用



③南会津地域での捕獲とモニタリング

テキスト
ボックス
(コピーして
使用)

南会津支署

・大江湿原のシカ柵の設置、解体は、南会津シカ対策協議会がボランティアの協力で行っていたが、新型コロナの影響で、実施体制が課題。南会津支署が貸し出しているワナでの捕獲は、舘岩猟友会に任せて実施されているのが現状。

檜枝岐村

・御池田代は、R2年度にシカ柵と自動撮影カメラの設置を実施。
R3年度は、大津岐での捕獲も実施予定。

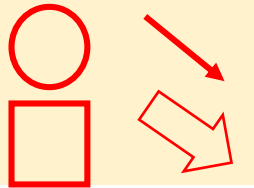
福島県

・R2年度、指定管理捕獲では、会津、南会津、県中、県南で700頭の目標達成。R3年度以降は、目標頭数の上限の設定など予算配分が課題。効果的捕獲促進事業では、鉾塩での誘引場所の変更や誘引餌にヘイキューブを混ぜる予定。

WMO

・新たに協議会を設けることで、指定管理鳥獣捕獲等事業の交付金を活用して対策を進められるのではないかと期待されている。

図形コピー用



③南会津地域での捕獲とモニタリング

テキスト
ボックス
(コピーして
使用)

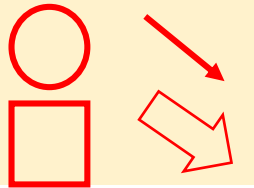
南会津町

・奥山でシカが多い場所が明らかになったとして、林道沿い、農地周辺といった現状の捕獲場所より遠い場所での捕獲を猟友会にお願いするのは別の課題となってくる。

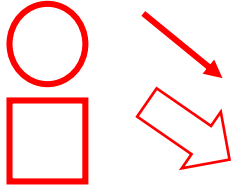
奥田先生

・季節移動型のシカは季節によって密度が変化する。いつ多くなり、夏にはどれくらい生息しているのか、といったデータを取得することが必要。県全域での捕獲から、捕獲場所を絞っていく状態になってきているので、幼獣やメスが多い場所、越冬地といった捕獲に有効なデータを取得することが重要。

図形コピー用

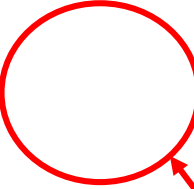
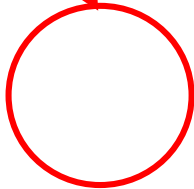


テキスト
ボックス
(コピーして
使用)

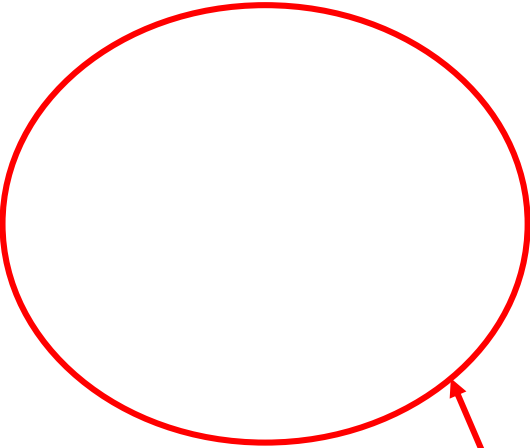


図形コピー用

町内でも良く捕獲されている
メッシュで農地がある環境
(南会津町)



栃木県域
国有林内での捕獲
(地元猟友会)



舘岩地区
捕獲従事者多い
捕獲努力量高い

R3年度拡大
大津岐 (檜枝岐
村)

